

(国語)

国語科指導入門 —教材文分析で変わる児童の学び—

大阪市立平尾小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

本校の児童は、素直で明るく課題に前向きに取り組む姿勢がみられる。一方、学習に対して自信をもてず、思ったことを自らの言葉で表現することを苦手とする児童が多い。

昨年度までの2年間、国語科を中心に教科研究を行ってきた。昨年度は研究主題を、「思いや考えを豊かに伝え合う子どもの育成 —自尊感情を高める学びの場を目指して—」として研究に取り組んだ。その結果、本校の昨年度の校内調査(児童)で「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する児童の割合は、95%と高い結果となった。これは、子どもの主体性を重視した指導の成果と言える。

一方、令和3年度の全国学力・学習状況調査(国語)の平均正答率 5割以下の児童は、53%であった。全教員が、子どもの実態を踏まえた授業改善に前向きに取り組んできたが、学力を向上するための授業づくりについて課題を残す結果となった。

これらのことを踏まえ、学力向上と密接にかかわる国語科指導に継続して取り組むことにした。

2. 研究の趣旨

以下の点に留意しながら研究を進めることとした。

- 研究が全教員の指導力向上につながるものとする。
- 誰もが取り組みやすく理解できる研究をめざす。
- 教材文分析に注力し、その教材を活用した指導のねらい、内容、方法を明らかにして実践的研究を進める。

研究を進めるにあたり、大阪市国語科研究部の研究を模範とし、教材文分析を行うことで児童の主体性や課題解決的な意識の流れを重視した単元計画を立てる。加えて、主体的対話的で深い学びについて研鑽をつみ、互いの思いや考えを交流し、言葉による見方・考え方を働かせ、国語科で求められる力が身につくように研究を進めることにした。

3. 研究の概要

今年度の研究主題に迫るために、次の3つの視点を設定した。

視点①教材文分析

- 教員全体で校内研修を重ね、その際は、大阪市教育センター作成の「説明的文章の教材文分析シート」を活用し、教材文分析を行う。
- 「題名読み」から始め、「初発の感想」を書き、「序論・本論・結論の大きな三つのまとまりに分ける」「本論を内容のまとまりごとに分ける」ことで、文章構成をとらえる。
- 「教材文の特徴を見つける」で、論の進め方や具体例、資料、語句などつけたい読みの力を明らかにする。
- 読みの力をつけるためにはどう読むのかという視点をもつようにし、「筆者の伝えたいことの要

旨」をとらえる。

- 筆者の考えについて納得できるか、納得できないかなどのように、「批判的思考を促す発問をどこで設定するのか」について考え、言語活動や単元の指導計画の立案を行う。
- 児童がどう読むのかという視点で、気づかせたい語句や表現は何か、育みたい読みの力は何かを指導者が教材文分析し、「読みの課題」を設定する。

視点②子どもが主体的に取り組むための工夫

- I次(つかむ)では、初発の感想をもとに「読みの課題」を設定し、単元計画を立てる。
- II次(広げ・深める)では、次のような一連の言語活動を通して「読みの課題」の解決を図り、読みを深めることにつなげる。

⑦教材文をよく読む

①「読みの課題」に対して自分なりに思いや考えを「書く」

②課題に対する思いや考えが妥当であるか考察を促すために交流活動を行う

③集団思考を通してまとまった思いや考えを、より確かなものにするために、もう一度「読む」活動を行ったり「書く」活動でまとめたりする。

視点③子どもが読みを深め活用するための工夫

- III次での言語活動を通して個々の「読み」の広がりや深まりを目指し、子どもが主体的に追求・解決した「読み」を自分なりの方法でまとめ、互いに伝え合い共有できる場を設定する。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 視点①教材文分析では、研修や学年部会、指導案検討会などを通して、経験年数も様々な中で、教員全体で教材文を分析し、指導内容を明らかにして指導するまでの流れを共有できた。
- 視点②子どもが主体的に取り組むための工夫では、初発の感想や子どもの課題意識の流れに沿って学習計画を設定したため、子どもが主体的に学習に取り組むことができた。さらに、III次に向けて単元を通した学習の見通しや意欲を子どもがもち、読みの課題を追求したり解決したりしようとすることができた。
- 視点③子どもが読みを深め活用するための工夫では、II次で追求・解決してきた読みの課題を活用して、自分なりの言葉で文章にまとめることができ、子どもが書くことに対する自信をつけていく様子を見ることができた。また、発表したり交流したりすることで、友だちの考え方や文章の作り方、良かったところや改善点などに気付くことができ、子どもが読みに対する深まりや広がりを感じることもできた。

(2) 今後の課題

- 非連続からの読み取りや、自分の思いや考えを書くという二つの力を子ども達につけていくことができるように授業改善を重ねる。
- 学校全体での系統立てた指導に取り組む。